

平成27年度病虫害発生予察予報第11号（2月）

平成28年2月3日  
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
抑制、促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多(県下全域)</u> <u>やや多(中央、西)</u> 、やや少(中西) <u>やや多(中央)</u> 、やや少(中西、西) <u>多(中央)</u> 、やや少(中西、西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ホコリダニ類	<u>やや多(東、西)</u> 、やや少(中西) <u>多(県下全域)</u> <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、平年並(東) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、やや少(西) やや少(県下全域) 少(県下全域)
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	<u>やや多(東、中央)</u> 、やや少(中西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東、中西)</u> <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央) <u>多(東、中西)</u> 、平年並(中央) 平年並(東)、やや少(中央、中西) <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(中西)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 少(中央) 少(中央)

※ ( ) 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

## I 気象予報（高松地方気象台 1月28日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞1月30日から2月29日

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率70%です。2週目は低い確率50%です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	20	40	40
		降水量	20	40	40
		日照時間	40		40

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	10	20	70
2週目		50		40
3～4週目		20	40	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：1月30日（土）～2月29日（日）

1週目：1月30日（土）～2月5日（金）

2週目：2月6日（土）～2月12日（金）

3～4週目：2月13日（土）～2月26日（金）

## II 病害虫発生予想

### 1 抑制、促成キュウリの病害虫

#### 1) ベと病

**予 想** 発生量：やや多（県下全域）

**根 拠**

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年並、発病程度も県中西部、西部では平年並であったが、中央部では高めであった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているため、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

**対 策**

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

#### 2) うどんこ病

**予 想** 発生量：やや多（中央部、西部）、やや少（中西部）

**根 拠**

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部、西部では平年並、中西部では少なめであり、発病程度の高いほ場も見られなかった。

(2)向こう1ヶ月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展すると考えられる。

#### 対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。

#### 3) 黄化えそ病

予 想 発生量：やや多（中央部）、やや少（中西部、西部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。平年に比べると発生面積、発病株数も多くないが、新たな発生も見られている。

(2)向こう1ヶ月の気温は平年並～高めと予想されているため、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになり、病勢が進展すると考えられる。

#### 対 策

(1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する（低温期は生長点付近に多く見られる）。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

#### 4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多（中央部）、やや少（中西部、西部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県中央部で発生面積が多く、発生程度もやや高めであったが、県中西部、西部では少発生であった。

(2)向こう1ヶ月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場では密度が上昇すると考えられる。

#### 対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する（低温期は生長点付近に寄生している）。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵など、化学農薬以外の防除方法も取り入れる。

## 2 促成ナスの病害虫

#### 1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（東部、西部）、やや少（中央部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県東部、西部で発生が見られた。いずれの地域も発生面積は平年並であり、発病程度が高いほ場も見られなかった。

(2)向こう1ヶ月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展すると考えられる。

#### 対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

#### 2) 黒枯病

予 想 発生量：多（県下全域）

## 根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域も発生面積はやや多めであり、県東部では発病程度もやや高めであった。
- (2)向こう1ヶ月の気温は平年並～高め、降水量も平年並～多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

## 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 3) すすかび病

予 想 発生量：多（西部）、やや多（中央部）、平年並（東部）

## 根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生面積が見られた。県西部では発生面積がやや多め、発病程度もやや高めであった。東部、中央部では目立った発生は見られなかった。
- (2)向こう1か月の気温は平年並～高め、降水量も平年並～多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

## 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 4) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（東部）、やや少（西部）

## 根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では発生面積がやや多め、寄生密度も高めとなったが、他の地域では目立った発生は見られなかった。
- (2)向こう1か月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場では密度が上昇すると考えられる。

## 対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

### 5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少（県下全域）

## 根 拠

- (1)巡回調査では県中央部、西部で発生が見られたが、平年に比べ発生面積は少なく、寄生密度の高いほ場も見られなかった。
- (2)向こう1か月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場では密度が上昇すると考えられる。

## 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

### 6) ホコリダニ類

予 想 発生量：少（県下全域）

## 根 拠

- (1)巡回調査では発生は見られなかった。

(2)秋期に発生が見られたほ場では、再発する可能性があるので注意する。

#### 対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。

(2)薬剤防除を行う場合、生長点付近を中心にたっぷりと薬剤散布を行う。また、発生株だけでなく、周辺の株も防除を行う。

### 3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

#### 1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（東部、中央部）、やや少（中西部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積の多い地域は見られなかったが、県中央部、中西部で発病程度が高めであった。

(2)向こう1か月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

#### 対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

#### 2) 斑点病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（東部、中西部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では発生面積も多く、発病程度も高めであった。県東部、中西部の発生面積は平年並であったが、東部では発病程度が高かった。

(2)向こう1か月の降水量は平年並～多めと予想されているため、病勢が進展すると考えられる。

#### 対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

#### 3) 黒枯病

予 想 発生量：多（東部）、やや多（中西部）、やや少（中央部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県東部、中西部で発生が見られた。県東部では発生面積も多く、発病程度も高かったが、中西部では目立った発生は見られなかった。

(2)向こう1か月の降水量は平年並～多めと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

#### 対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

#### 4) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（東部、中西部）、平年並（中央部）

#### 根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られた。発生面積は県東部、中西部で多め、中央部でやや少なめであった。中西部では寄生密度が高めであったが、すす病の発生は見られなかった。
- (2)向こう1か月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場では密度が上昇すると考えられる。

#### 対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

#### 5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（東部）やや少（中央部、中西部）

#### 根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られたが、いずれの地域も目立った発生は見られなかった。
- (2)向こう1か月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場では密度が上昇すると考えられる。

#### 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

#### 6) ヒラズハナアザミウマ

予 想 発生量：多（東部）、やや多（中央部）、やや少（中西部）

#### 根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られた。県東部では発生面積が多めであったが、寄生密度は平年並であった。中央部、中西部では目立った発生は見られなかった。
- (2)向こう1か月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場では密度が上昇すると考えられる。

#### 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

## 4 促成トマトの病害虫

### 1) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

#### 根 拠

- (1)巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。下葉中心の発生であったが、発病程度も平年に比べ高めであった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

#### 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 2) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

## 根 拠

- (1)巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。下葉中心の発生であったが、発病程度も平年に比べ高めであった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

## 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

## 根 拠

- (1)巡回調査では発生が見られなかった。
- (2)本病の媒介虫であるタバココナジラミは巡回調査では見られていないため少発生が続くと考えられる。

## 対 策

- (1)媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

### 4) タバココナジラミ

予 想 発生量：少(中央部)

## 根 拠

- (1)巡回調査では発生が見られなかった。

## 対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

### こうち農業ネットサービス※

・携帯電話を使った病害虫関連情報 (どなたでも利用可能です)

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info> (Iモード)

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報 (ezweb)

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

- ①病害虫発生予察情報 (概要)

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります